

コンピュータプログラミングI / II  
(補助資料)

小濱 隆司

2023年度

# 目次

<b>第1章 プログラミング環境構築</b>	<b>1</b>
1.1 Windows 11	1
1.2 JDK のインストール	2
1.2.1 ダウンロード	6
1.2.2 インストール	20
1.2.3 動作確認	26
1.3 サクラエディタのインストール	31
1.3.1 ダウンロード	33
1.3.2 ファイル名拡張子の表示の設定	37
1.3.3 インストール	43
1.3.4 動作確認	51
1.3.5 文字コードの設定	53
1.3.6 フォント設定	62
1.3.7 タブバーの設定 (任意)	66
1.3.8 エディタの終了	72



# 第1章 プログラミング環境構築

「コンピュータプログラミング」の授業では、「Java 言語」を使用してプログラミングをします。Java 言語を使用するために、Java Development Kit (JDK) と呼ばれる「Java 開発キット」をPCにインストールします。また、プログラム等を入力するために、「テキストエディタ」と呼ばれるツールもインストールします。

## 1.1 Windows 11

はじめに、Windows 11 の確認をします。図 1.1 は、「Windows 11 Version 22H2」のデスクトップです。画面下部を「タスクバー」と呼びます。虫眼鏡アイコンと「検索」が表示されている部分「検索ボックス」と呼びます。

Version 22H2 から「検索ボックス」が表示されるようになりました。表示されている場合は、JDK のインストールに進みます。この「検索ボックス」が表示されていない場合は、Version 22H2 にアップデートします。

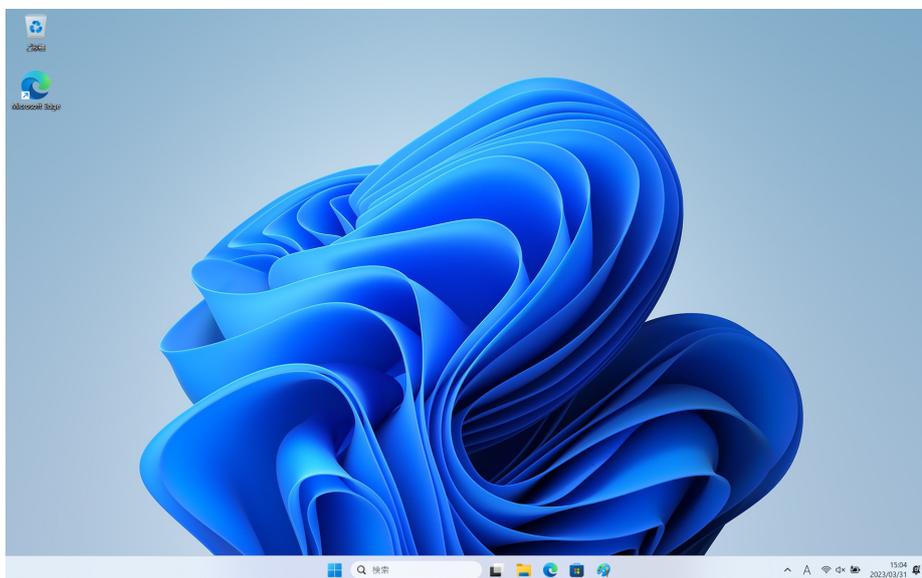


図 1.1: デスクトップ 1

## 1.2 JDK のインストール

JDK にはさまざまな種類があります。ここでは、Open JDK の 1 つ 「Liberica JDK」をインストールします。バージョンは「8」, 「Full パッケージ (全部入りのパッケージ)」をインストールします。<sup>1</sup>

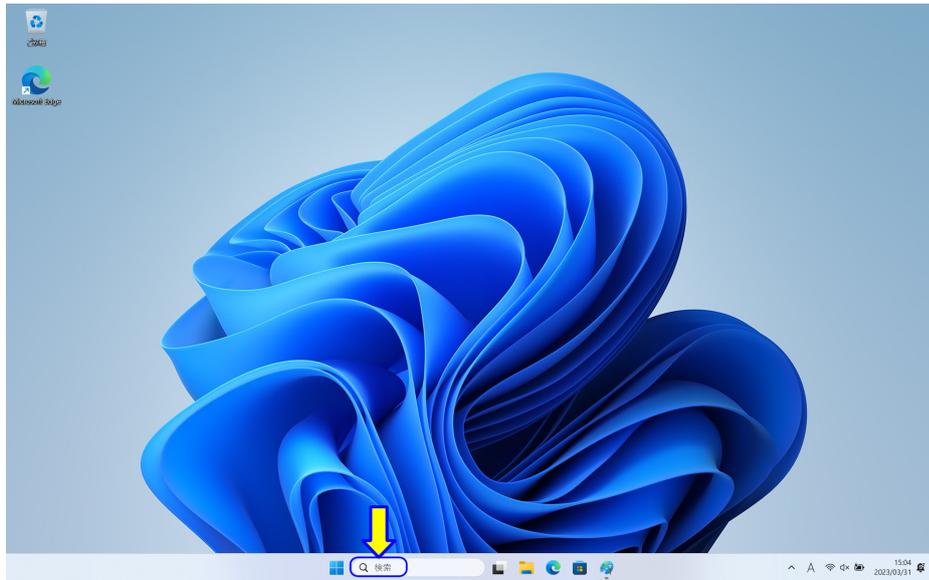


図 1.2: デスクトップ 2

はじめに、「Edge」ブラウザを起動します。PCの検索機能を使用します。画面下部「タスクバー」の虫眼鏡アイコンと「検索」が表示されている部分「検索ボックス」をマウスでクリックします (図 1.2)。

---

<sup>1</sup>Liberica JDK バージョン 8 は、最新ではないのですが、言い換えれば、長期間、安定した動作をしています。また、「LTS」(Long Term Support) であり、このバージョンは長期サポートされることが保証されています。Liberica JDK の「Full パッケージ」は、「JavaFX」も含まれ、別途インストールすることなしに JavaFX が使用できます。

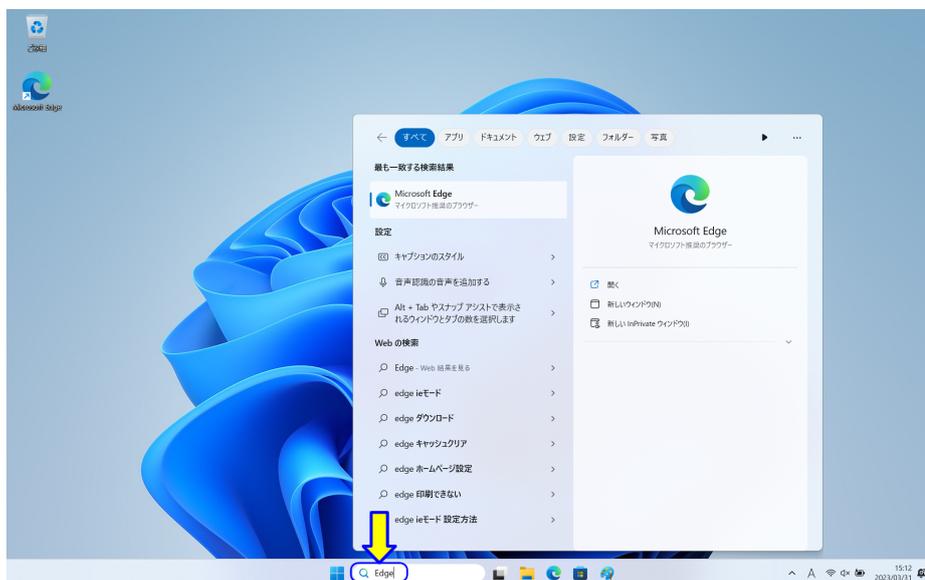


図 1.3: デスクトップ 3

ここに「Edge」と入力します。検索結果が表示され、「Microsoft Edge」が表示されると  
思います (図 1.3)。検索結果の 1 番目の場合は、Enter キーで起動することができます。

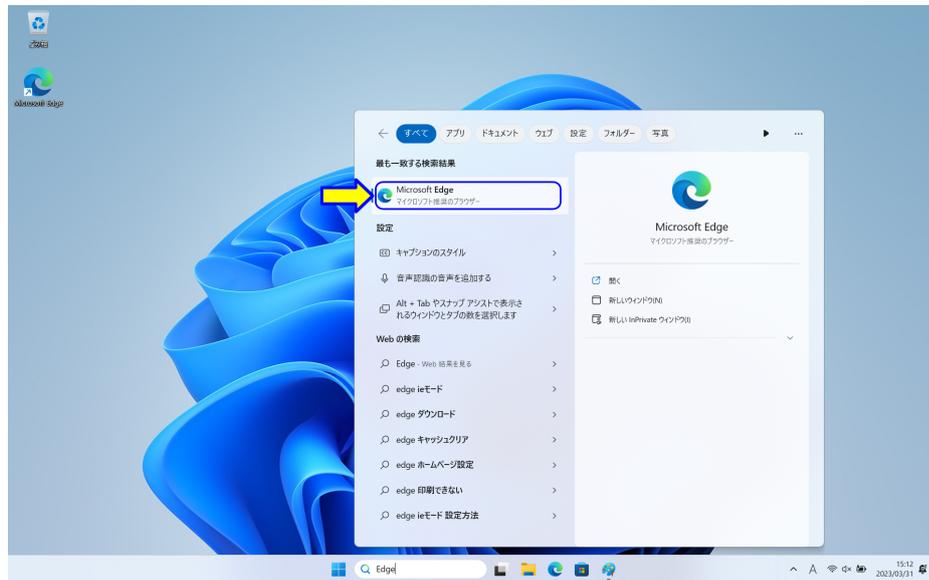


図 1.4: デスクトップ 4

それ以外は、検索結果の「Microsoft Edge」の表示をマウスでクリックします (図 1.4).

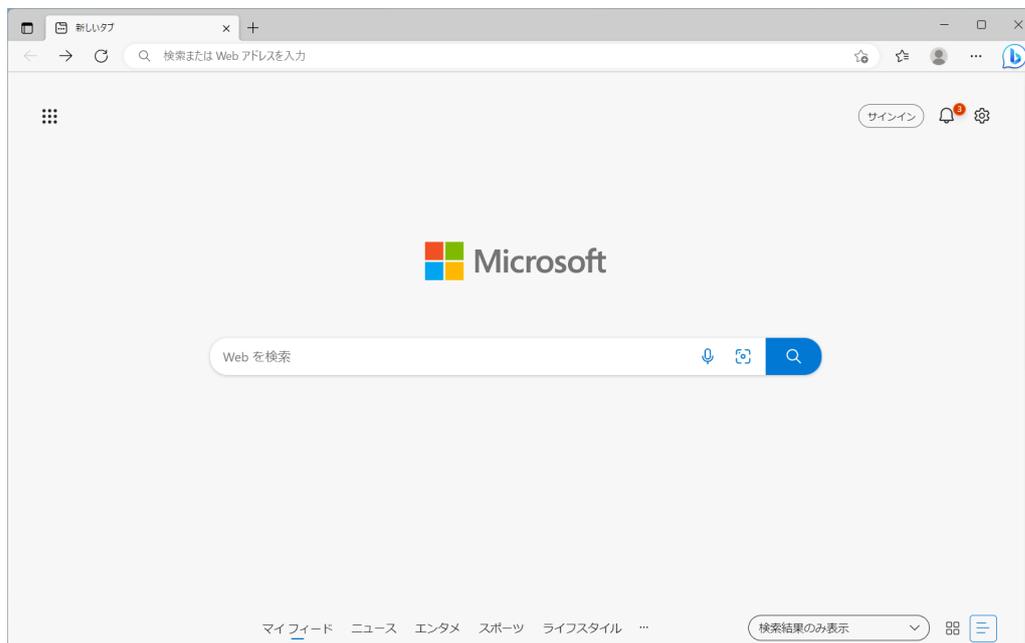


図 1.5: Microsoft Edge ブラウザ

Edge ブラウザが起動します (図 1.5)。ブラウザの設定により、さまざまな情報や画像が表示されます。

### 1.2.1 ダウンロード

「Liberica JDK 8 Full パッケージ」をインターネットからダウンロードします。

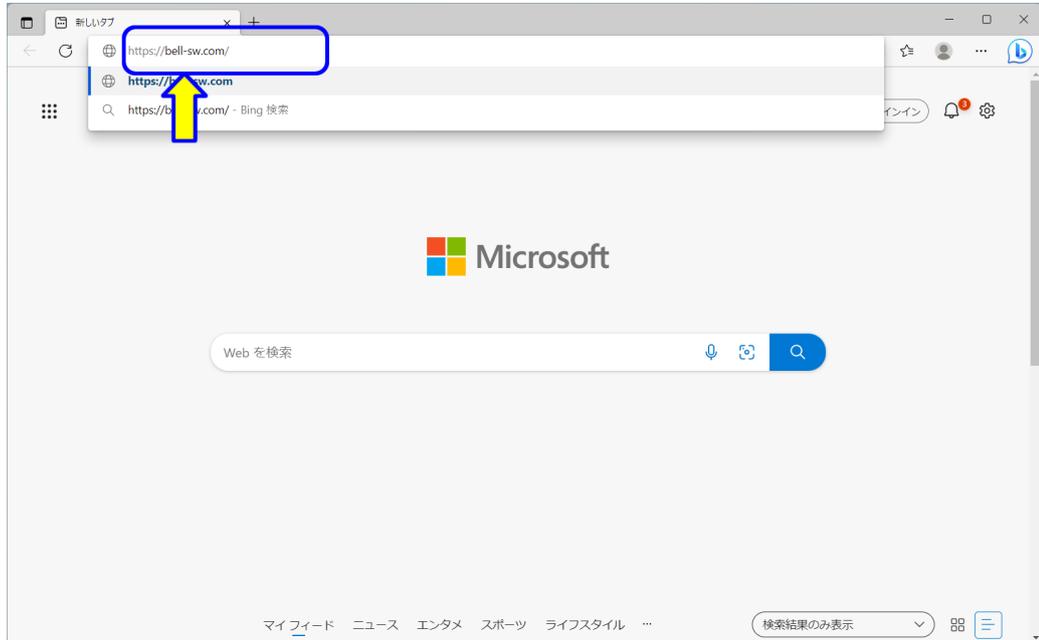


図 1.6: JDK ダウンロード 1

ブラウザのアドレスバーに、以下の URL を入力します (図 1.6).

```
https://bell-sw.com/
```

入力したら、Enter キーを押します。

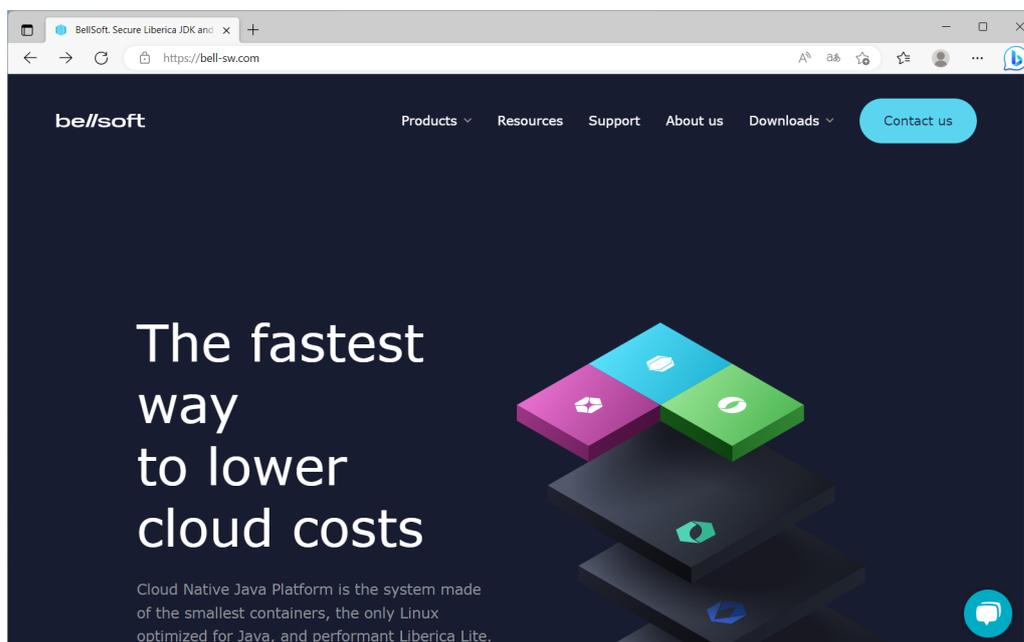


図 1.7: JDK ダウンロード 2

BELLSOFT 社の LIBERICA JDK のページが表示されます (図 1.7). (表示されない場合は、URL を確認します.)

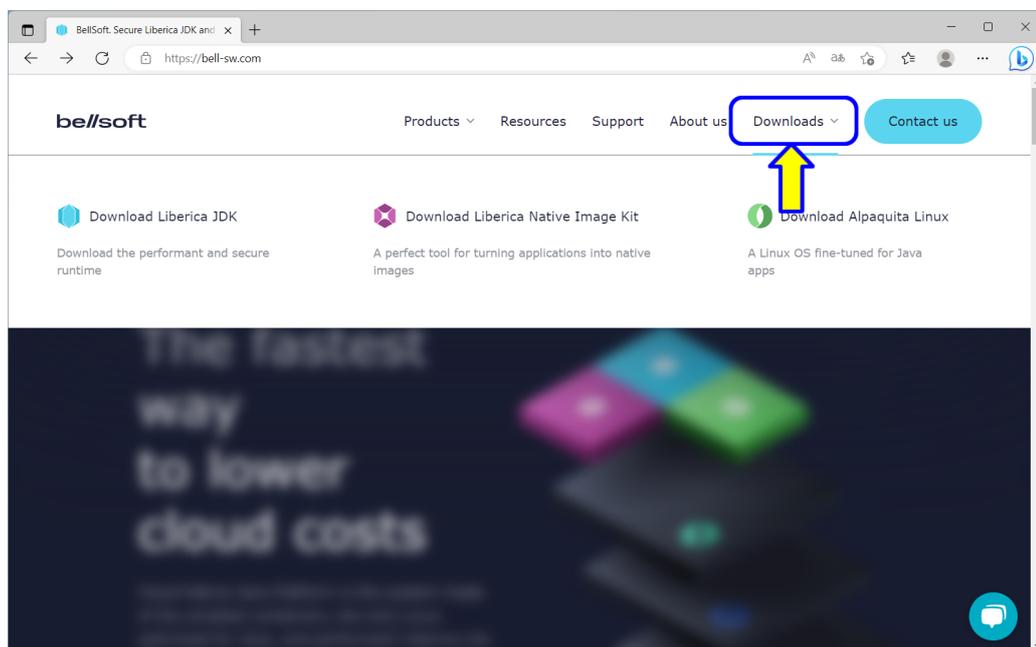


図 1.8: JDK ダウンロード 3

ウェブページの上部の「Downloads」にマウスポインタを移動します。マウスポインタを移動することで、メニューが開きます。

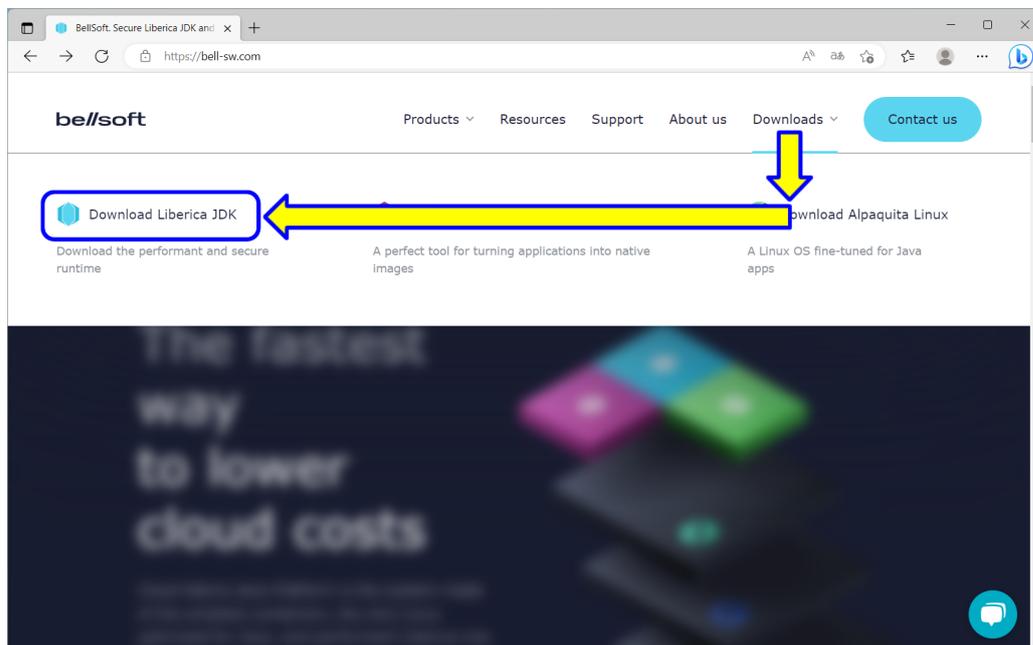


図 1.9: JDK ダウンロード 4

マウスポインタを移動し、「Download Liberica JDK」をクリックします。  
マウスの操作ができない場合は、ブラウザのアドレスバーに、以下の URL を入力します。

```
https://bell-sw.com/pages/downloads/
```

入力したら、Enter キーを押します。

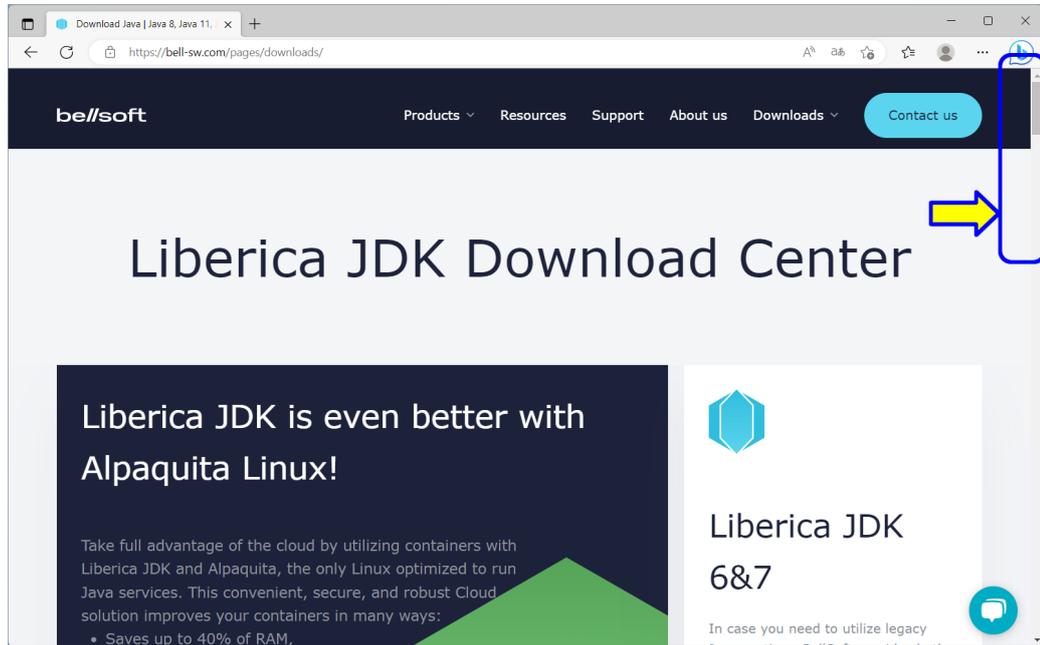


図 1.10: JDK ダウンロード 5

「Liberica JDK Download Center」のページが表示されます (図 1.10)。ページをスクロールします。

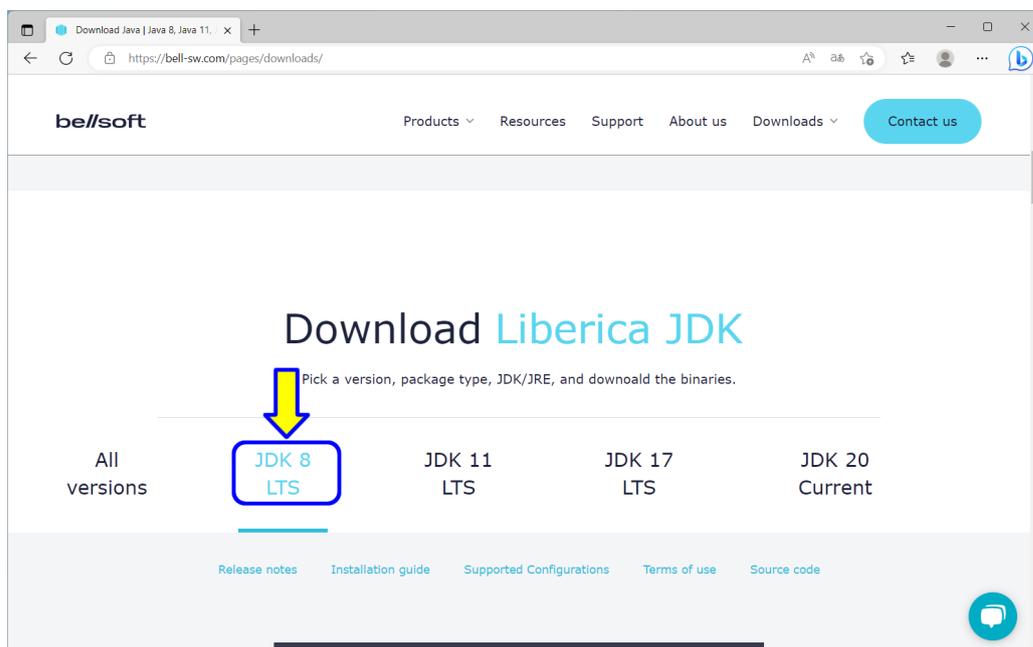


図 1.11: JDK ダウンロード 6

ページをスクロールすると、「Download Liberica JDK」の見出しが表示されます (図 1.11)。「JDK 8 LTS」をクリックします。メニューの色が変わります。

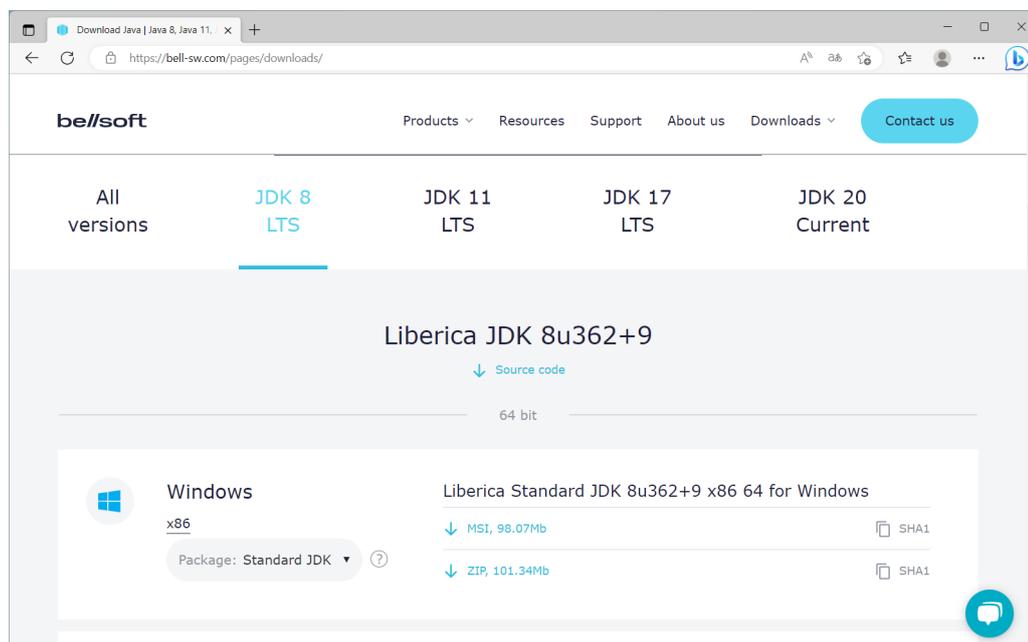


図 1.12: JDK ダウンロード 7

ページをスクロールすると、「Liberica JDK 8u362+9」の見出しが表示されます (図 1.12).

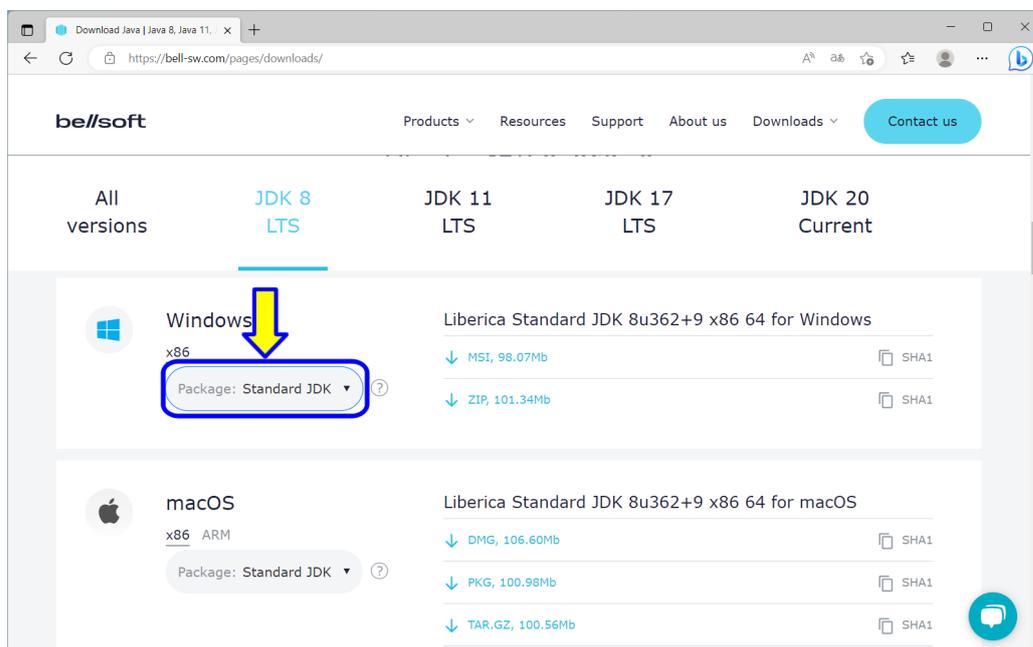


図 1.13: JDK ダウンロード 8

Windows の「Package: Standard JDK」をクリックします。

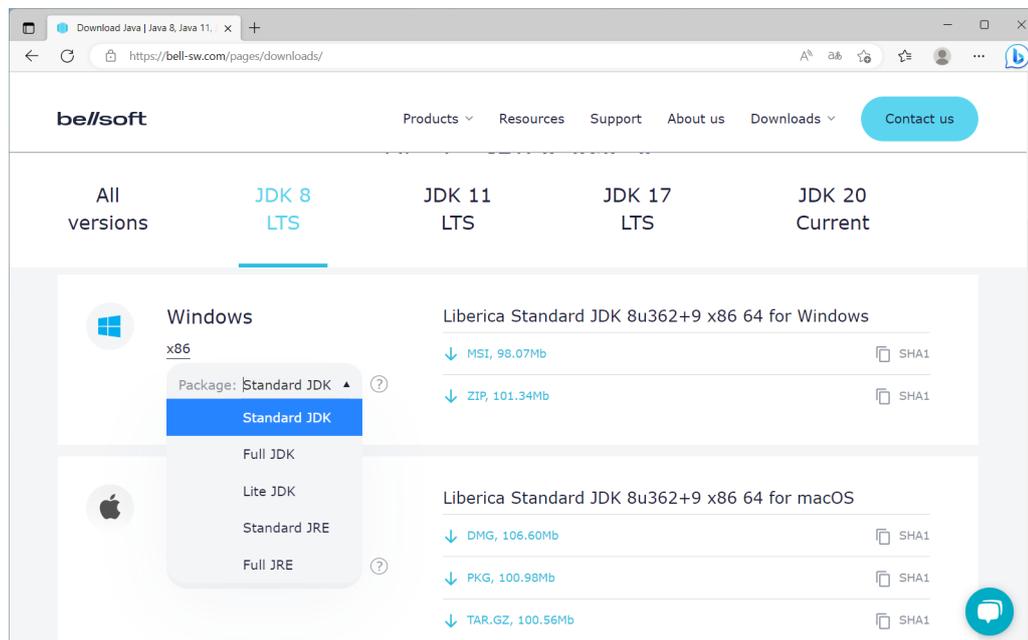


図 1.14: JDK ダウンロード 9

ドロップダウンリストが表示されます。

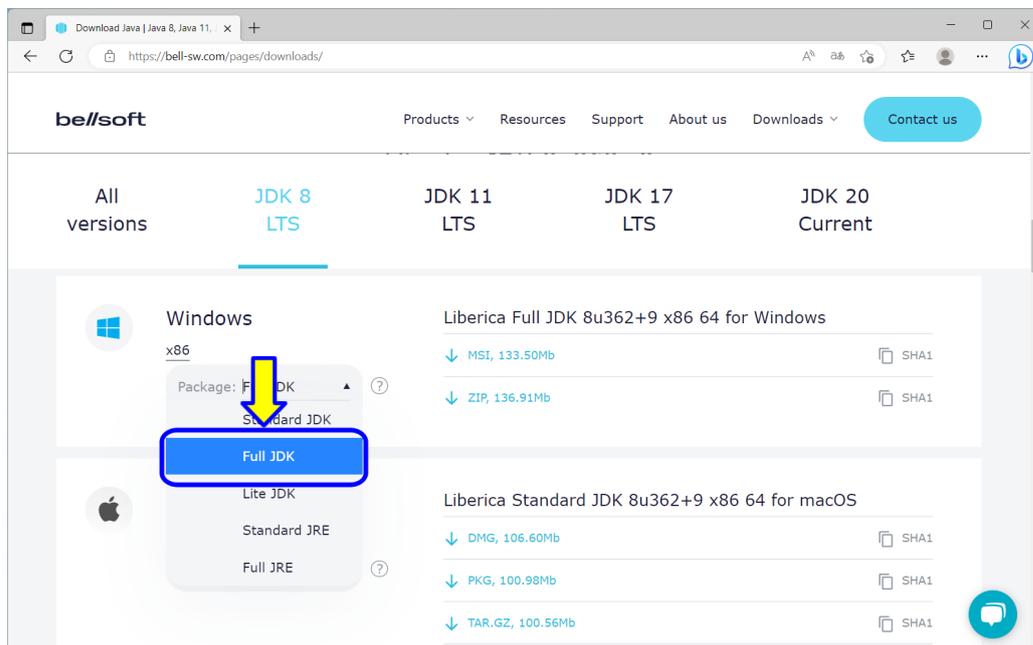


図 1.15: JDK ダウンロード 10

ドロップダウンリストから「Full JDK」を選択します。

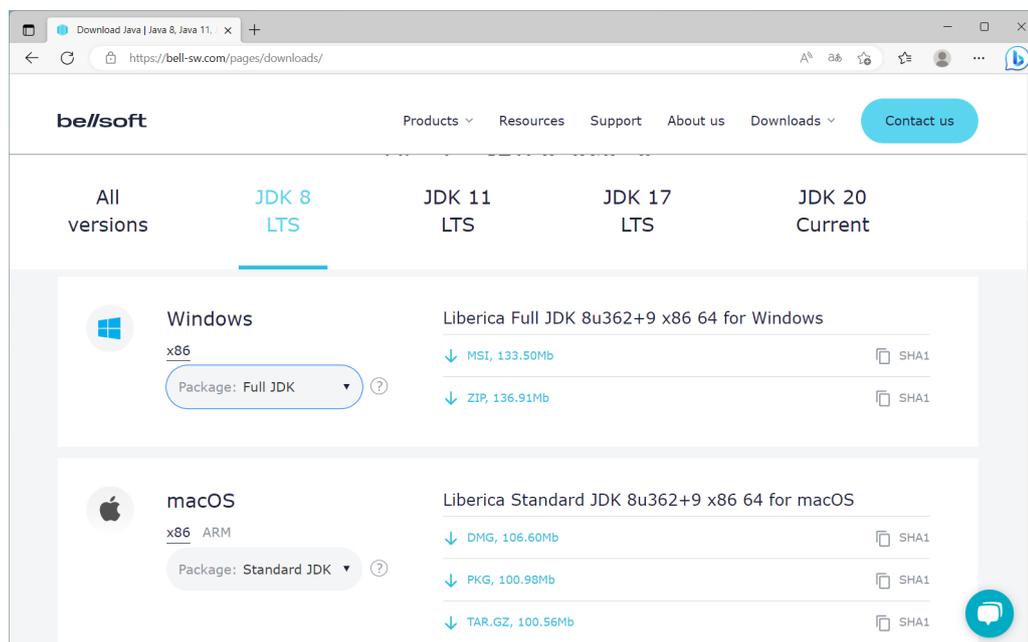


図 1.16: JDK ダウンロード 11

「Package: Full JDK」に変わります。また、「Liberica Full JDK 8u362+9 x86 64 for Windows」に変わります。

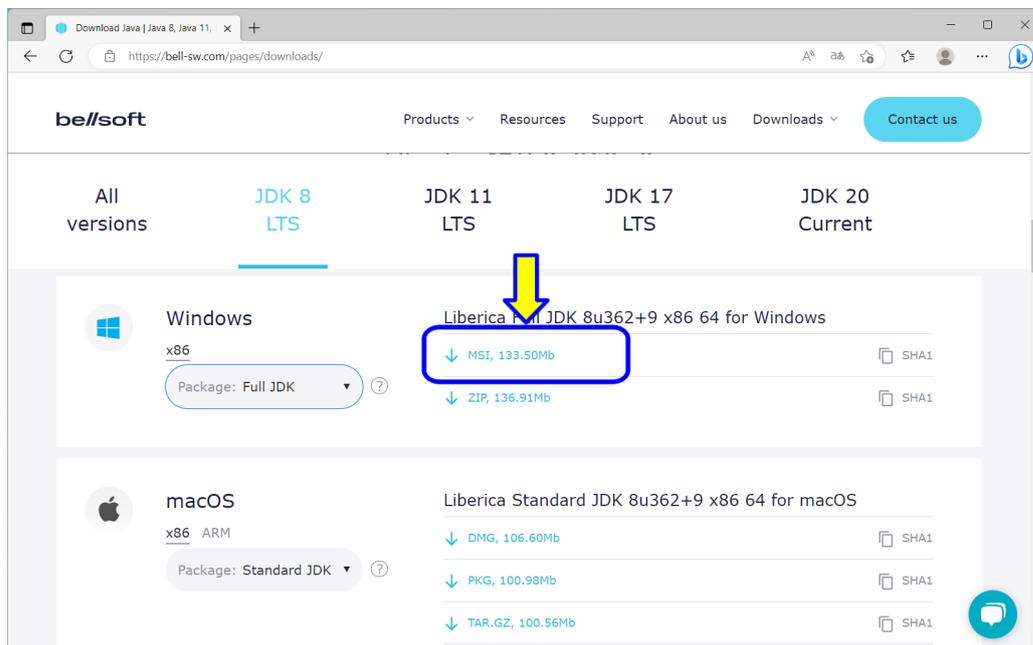


図 1.17: JDK ダウンロード 12

「Liberica Full JDK 8u362+9 x86 64 for Windows」の下の「↓ MSI, 133.50Mb」の部分をクリックします。ダウンロードが開始されます。

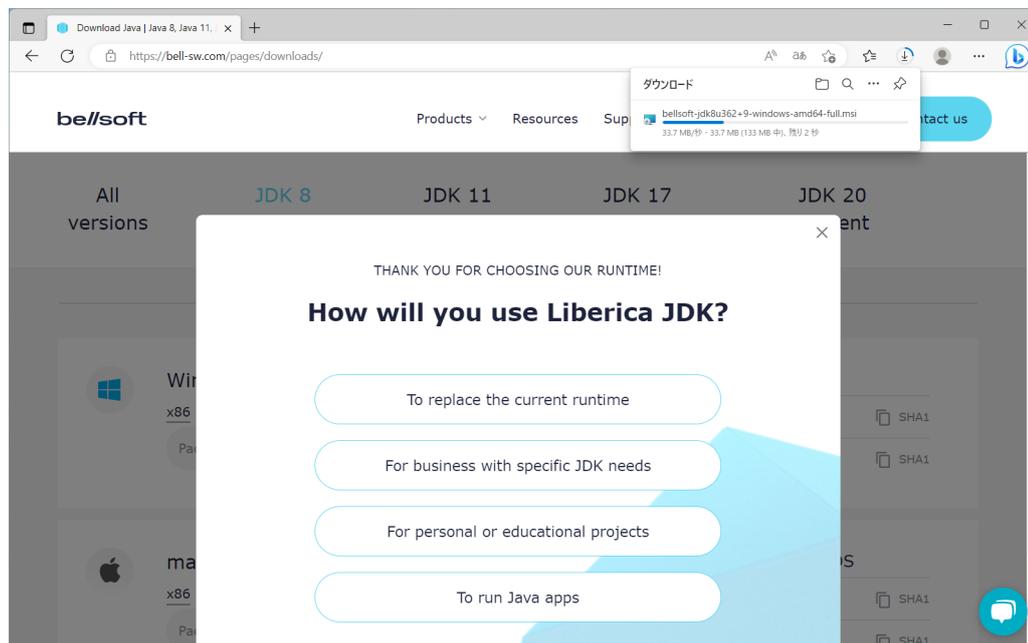


図 1.18: JDK ダウンロード 13

ダウンロードが完了するまで、しばらく待ちます。

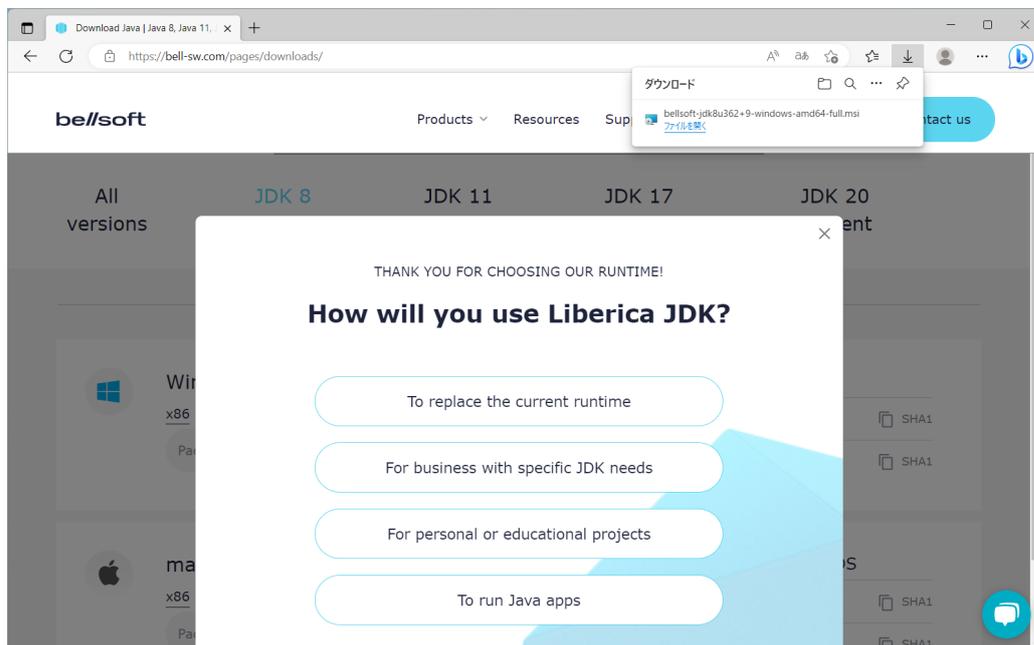


図 1.19: JDK ダウンロード 14

ダウンロードが完了しました。

## 1.2.2 インストール

「Liberica JDK 8 Full パッケージ」をインストールします。

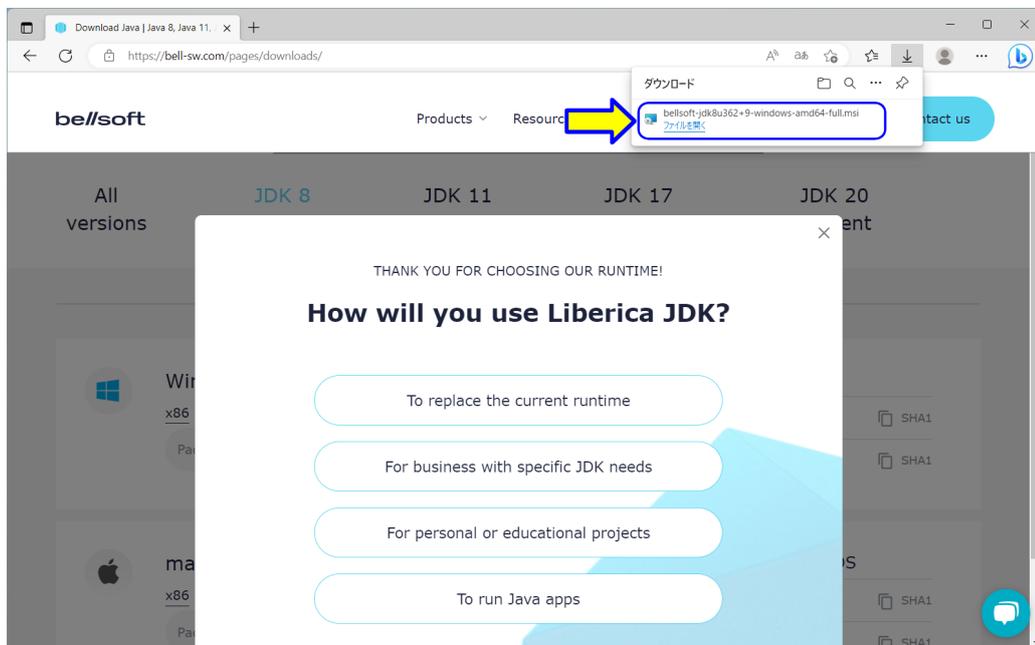


図 1.20: JDK インストール 1

ダウンロードのメッセージの中の「ファイルを開く」をクリックします (図 1.20)。

もし、ダウンロードのメッセージが消えた場合には、以下の方法で表示します。

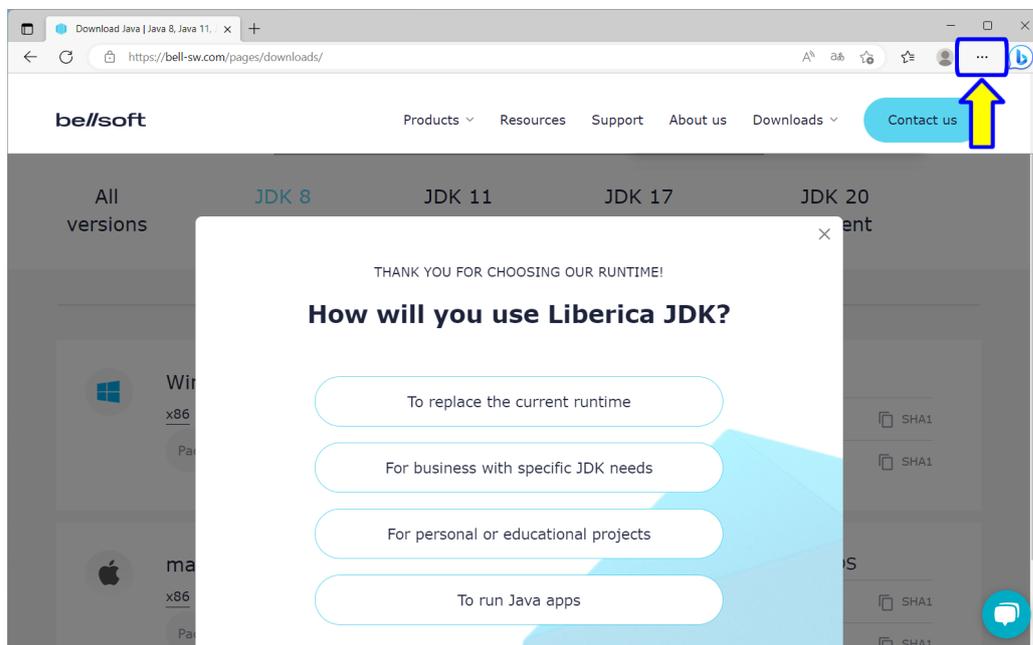


図 1.21: ダウンロードのメッセージが消えた場合 1

ブラウザの右上の「…」(三点リーダー)の部分をクリックします(図 1.21)。

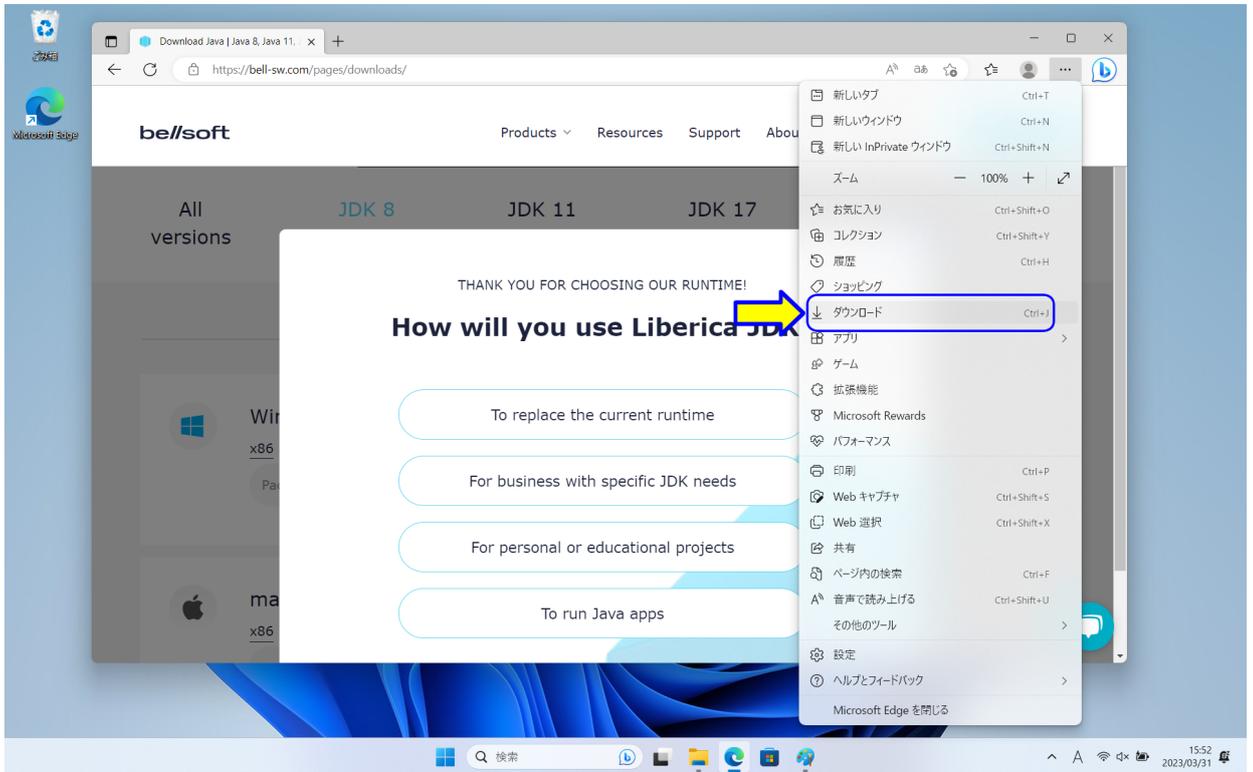


図 1.22: ダウンロードのメッセージが消えた場合 2

設定などのメニューが表示されますので、「ダウンロード」をクリックします (図 1.22) .  
ダウンロードのメッセージが表示されます. ダウンロードのメッセージの中の「ファイル  
を開く」をクリックします (図 1.20) .



図 1.23: JDK インストール 2

「Liberica JDK 8 Full (64-bit) Setup」のダイアログボックスが表示されます (図 1.23)。「Next」をクリックします。

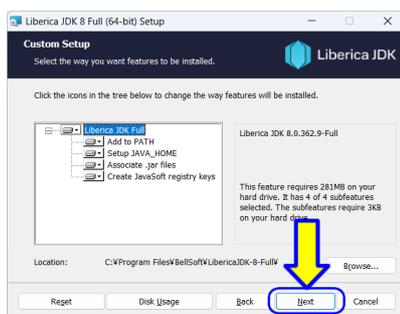


図 1.24: JDK インストール 3

インストールの設定画面が表示されます。そのまま、「Next」をクリックします。

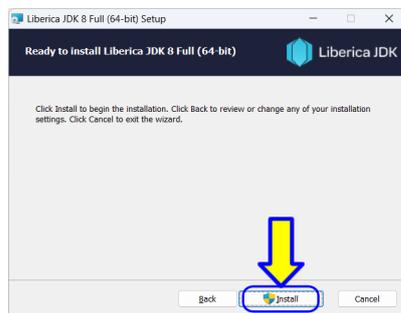


図 1.25: JDK インストール 4

インストール開始の確認画面が表示されます。「Install」をクリックします。



図 1.26: JDK インストール 5

「ユーザーアカウント制御」が表示されます。「はい」をクリックします。

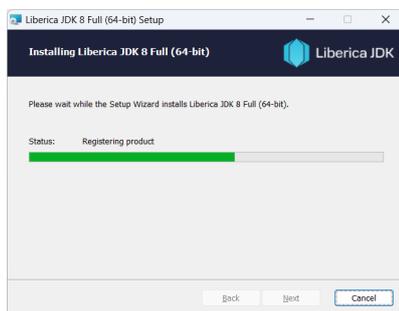


図 1.27: JDK インストール 6

インストール中です。完了するまで、しばらく待ちます。



図 1.28: JDK インストール 7

インストールが完了しました。「Finish」をクリックします。

### 1.2.3 動作確認

動作確認するために、「コマンドプロンプト」を起動します。

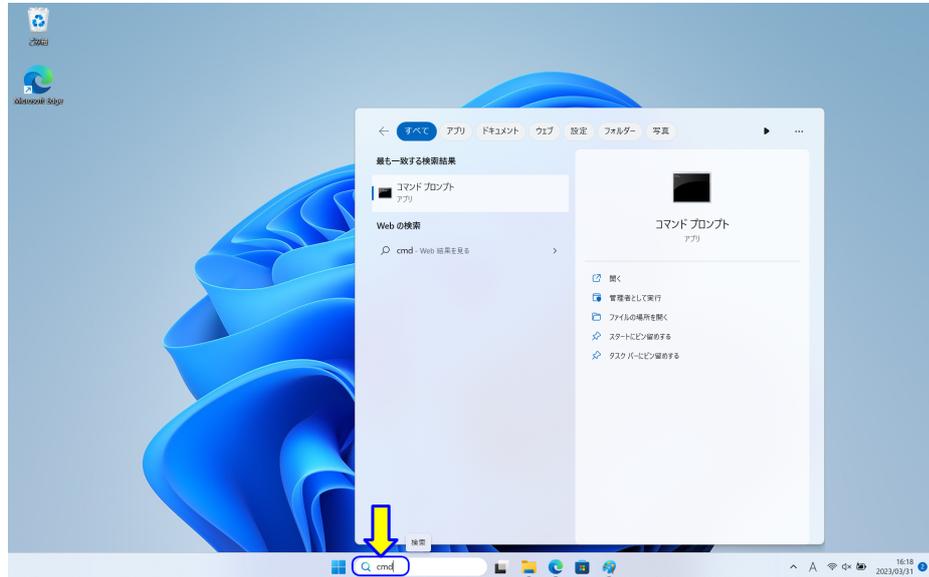


図 1.29: JDK 動作確認 1

デスクトップの「検索ボックス」に、「cmd」と入力します (図 1.29). 検索結果に「コマンドプロンプト」が表示されます. 1 番目に表示された場合は, Enter キーを押します. それ以外は,「コマンドプロンプト」の表示をクリックします.

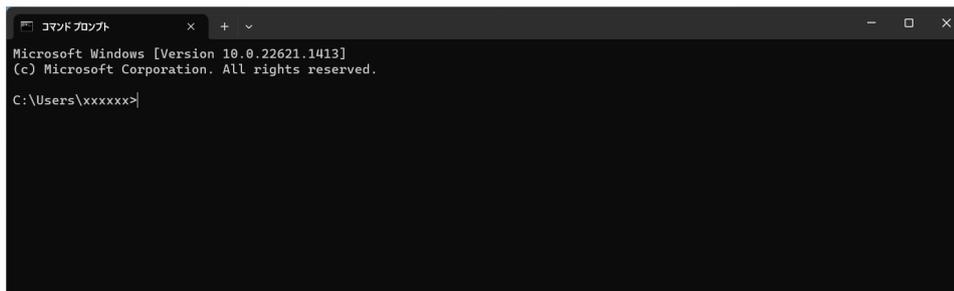
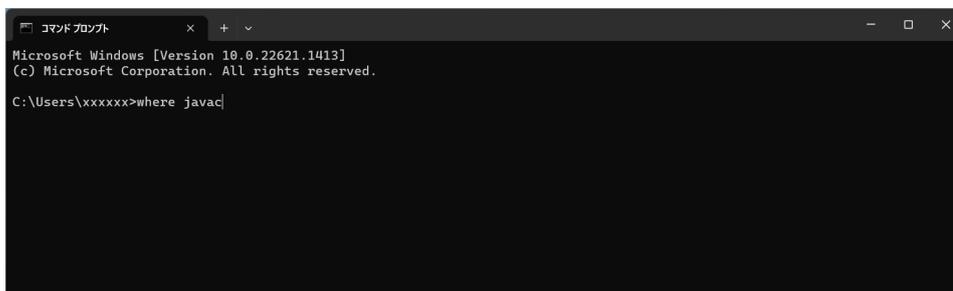


図 1.30: JDK 動作確認 2

コマンドプロンプトが表示されます (図 1.30). 「C:¥Users¥xxxxxxx >」の xxxxxx は, PC で使用しているユーザー名が入ります. この右側の縦棒「|」は, カーソルと呼ばれます. カーソルの位置にキーボードから入力した文字が入ります.



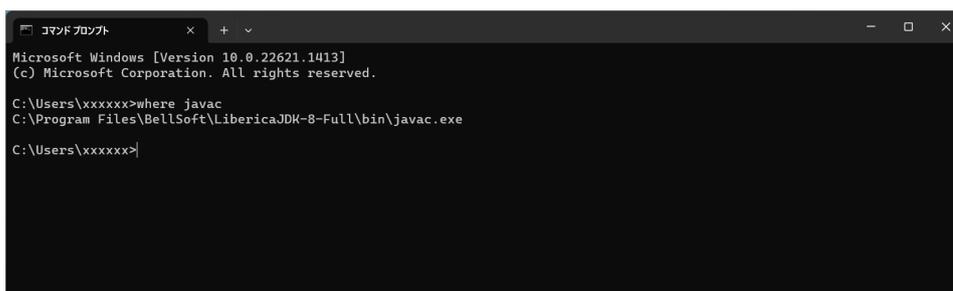
```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.
C:\Users\xxxxx>where javac
```

図 1.31: JDK 動作確認 3

ここで、以下のように入力します (図 1.33).

```
where javac
```

(where と javac の間には、スペースが必要です。) 入力したら、Enter キーを押します。



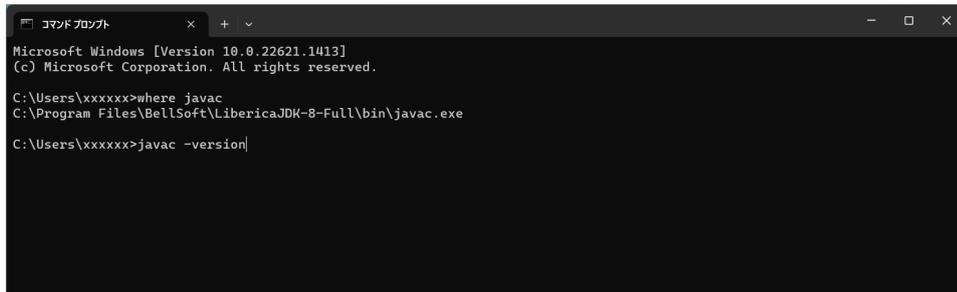
```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.
C:\Users\xxxxx>where javac
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe
C:\Users\xxxxx>
```

図 1.32: JDK 動作確認 4

実行結果

```
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe
```

ここで、インストールされたプログラムを確認します。「LibericaJDK-8-Full」の表示ではない場合、JDK のダウンロードからやり直します。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\xxxxxx>where javac
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe

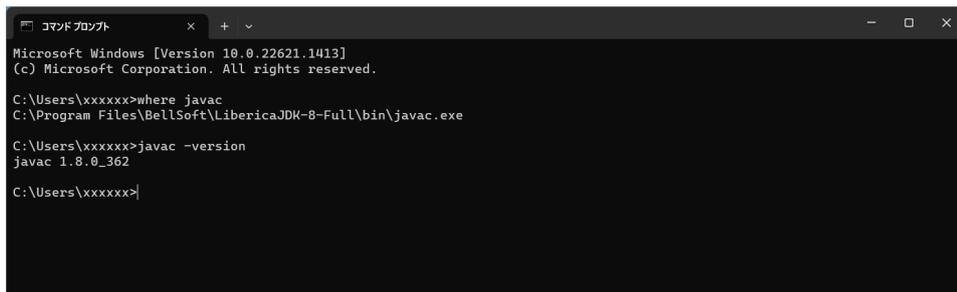
C:\Users\xxxxxx>javac -version|
```

図 1.33: JDK 動作確認 3

ここで、以下のように入力します (図 1.33).

```
javac -version
```

(javac と -version の間には、スペースが必要です。) 入力したら、Enter キーを押します。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\xxxxxx>where javac
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe

C:\Users\xxxxxx>javac -version
javac 1.8.0_362

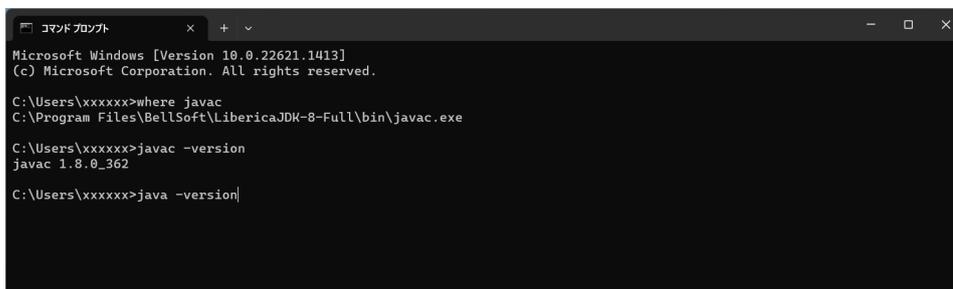
C:\Users\xxxxxx>|
```

図 1.34: JDK 動作確認 4

実行結果

```
javac 1.8.0_362
```

上記が表示されれば OK です (図 1.34).



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\xxxxxx>where javac
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe

C:\Users\xxxxxx>javac -version
javac 1.8.0_362

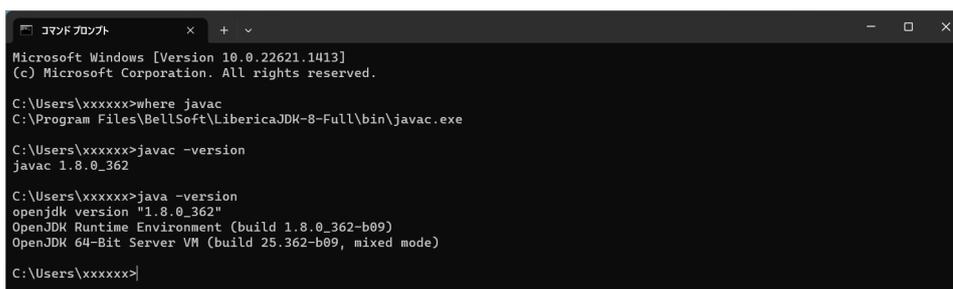
C:\Users\xxxxxx>java -version|
```

図 1.35: JDK 動作確認 5

次に、以下のように入力します (図 1.35).

```
java -version
```

(java と -version の間には、スペースが必要です。) 入力したら、Enter キーを押します。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\xxxxxx>where javac
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe

C:\Users\xxxxxx>javac -version
javac 1.8.0_362

C:\Users\xxxxxx>java -version
openjdk version "1.8.0_362"
OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_362-b09)
OpenJDK 64-Bit Server VM (build 25.362-b09, mixed mode)

C:\Users\xxxxxx>|
```

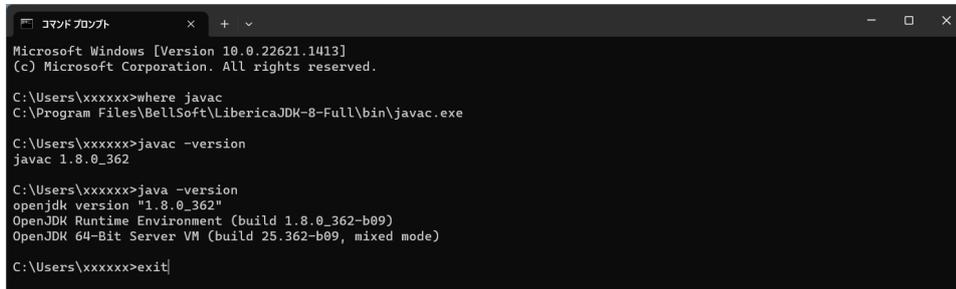
図 1.36: JDK 動作確認 6

#### 実行結果

```
openjdk version "1.8.0_362"
OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_362-b09)
OpenJDK 64-Bit Server VM (build 25.362-b09, mixed mode)
```

上記が表示されれば OK です (図 1.36).

コマンドプロンプトを終了します。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22621.1413]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\xxxxxx>where javac
C:\Program Files\BellSoft\LibericaJDK-8-Full\bin\javac.exe

C:\Users\xxxxxx>javac -version
javac 1.8.0_362

C:\Users\xxxxxx>java -version
openjdk version "1.8.0_362"
OpenJDK Runtime Environment (build 1.8.0_362-b09)
OpenJDK 64-Bit Server VM (build 25.362-b09, mixed mode)

C:\Users\xxxxxx>exit
```

図 1.37: JDK 動作確認 7

ここで、以下のように入力します (図 1.37)。

`exit`

入力したら、Enter キーを押します。コマンドプロンプトのウィンドウは消えます。(または、ウィンドウの右上「×」をクリックします。)

## コンピュータプログラミング I / II

小濱 隆司 (東京電機大学 システムデザイン工学部 情報システム工学科)

### アップデート

2020/4/24 2020 年度 第 1 章 プログラミング環境構築

2021/4/5 2021 年度 第 1 章 プログラミング環境構築

2022/4/7 2022 年度 第 1 章 プログラミング環境構築

2023/4/11 2023 年度 第 1 章 プログラミング環境構築